

横浜市小学校社会科研究会

5 学年部会

研修会記録

第 1 号

令和3年 7月 7日

横浜市小学校教育研究会

会長 後藤 俊哉

横浜市小学校社会科研究会

会長 梅田 比奈子

同 学年部長 田村 拓之

【提案日時】

6月 16日 (水)

提案 鷹野 誠 先生 (本牧南小)

【会 場】

横浜市立 平沼小学校

司会 高杉 祥平 先生 (小坪小)

記録 比嘉 将来 先生 (西富岡小)

1 提案内容 単元名

単元名「未来を支える食料生産～庄内のIさんたちの米作り」

2 提案者より

視点①に重点を置いて提案を行う。

視点①

○学習計画づくりについて

学習計画を立てる際には教師が3つの視点をもっておくことで、計画を立てることができる。

- ・内容 発問「何について学習したらいいと思いますか」
- ・方法 発問「どうやって学習していきますか」
- ・順序 発問「何から(どこから)学習をはじめますか」

本実践における子どもの予想

①手作業で丁寧につくっているのではないか(4年の寄木の学習を生かした考え)

②誰かと協力しているのではないか

③何か工夫をしているのではないか

教師が3つの視点をもって学習計画を立てていくことで汎用的な知識を獲得できるのではないか。

視点② 本気の学習問題について

材「ドローンの導入」

今までの農業における機械化⇒省力化

今回のドローンセンシング⇒省力化+生産量+品質

今後、Iさんの稲に対しての熱い思いなどずれをより生み出す工夫があれば材としてかなり良いものになるのではないか。

3 協議会

「方法」について I さんに聞く以外に方法はあるのか。

一般的な米作りについて調べて I さんと比べるという流れもありなのでは。

意図的に I さんなどの名前を出す場面出さない場面を作ると深まるかもしれない。

一人ひとりが調べて意見を出していくという学び方もありなのでは。

ふり返りに一時間使うのは難しいのではないか。

⇒一時間使ってふり返りを行う場合、一時間毎にふり返りを行う場合など今後様々な形を市研で検討していきたい。

どこまでを子どもに委ねるのが難しい

⇒「順序」について、教師が子どもに考えさせたい中心から学習が始まってしまう場合も想定される。

「どれが調べやすい」、「どんな情報がほしい」など具体的な声掛けをしていくことも大切になってくる。

<講師の先生より> 新治小学校 宮本 雅司

1つの社会科の授業づくりの方法についての提案だった。学習計画を立てる際には、教師が最初に見せる資料によって、問い・順序は変わってくる。学習計画を立てる意図は、子どもが自ら動くこと、見通しをもって学習を行うことである。子どもが今までにどんなことを経験して学んできたのかを考えることも大切。

学習問題の解決に向けて、事実をつかんでいくことが大切である。第5時でヘリコプターについて扱った際、一人でも子どもが気付いていれば本気の学習問題のドローンにつながっていく。

本時後に消費者についても子どもが気にしている、それを取り上げていけば、「学んだことを社会や生活に生かす学習過程」につながっていくのではないか。

文責 比嘉 将来 (西富岡小学校)